

オリジナルアニメーション映画に関する統計的分析

2019SS022 一柳航太

指導教員：松田眞一

1 はじめに

私は普段から視聴しているオリジナルアニメーション映画の多様性は映画監督の趣味や嗜好によって生まれているのかについて興味を抱き、分析を行うことにした。

2 データについて

今回は数年単位で作品をだし続けている新海誠と細田守の作品を使用する。また二人より以前から現代にかけてまで作品を制作し続けている宮崎駿監督作品も使用する。内容に沿った分析では、全 21 作品の分析を、描写に沿った分析ではその中から興行収入の高い 10 作品の分析を行った。

2.1 アイテム

アイテムは主人公性別、恋愛要素有無、家族愛要素有無、友情要素有無、非現実要素、場所、異生物要素、主人公年齢を用いた。描写に沿った分析には序盤中盤終盤のカット数とシーン数もデータに取り入れる。このとき、上記の恋愛要素、家族愛要素、友情要素は場面ごとで異なるデータとなる場合がある。描写に沿ったクラスター分析ではデータをそのまま使用し、数量化二類ではデータをカテゴリーに分けて分析を行う。データに関しては映像視聴サイトである Amazon Prime Video[1], Netflix[4] また Blu-ray Disc を利用し、収集した。

3 分析方法について

分析方法は数量化二類とクラスター分析のワード法を使用した。(長畑 [2], 中村 [3] 参照)

4 クラスター分析結果

4.1 内容に沿った分析

群は図 1 を左から 6 つに分ける。

- 第一群：異世界を舞台にした女性主人公作品の群。
- 第二群：異世界を舞台にした男性主人公作品の群。
- 第三群：日本を舞台にした家族を題材にした作品の群。
- 第四群：異生物を作品に含めた作品の群。
- 第五群：日本を舞台にした現実的な作品の群。
- 第六群：ファンタジーと男女の恋愛を題材にしたの群。

4.2 描写に沿った分析

次に内容に寄り添ったアイテムに加えて、序盤中盤終盤に分けてカット数とシーン数を調べた作品で分析を行う。

- 第一群：カット数が 150 以上の非常に多い場面の群。
- 第二群：カット数とシーン数が少ない恋愛場面の群。
- 第三群：カット数が少なく、シーン数が多い場面の群。
- 第四群：シーン数が多く家族を焦点に当てた場面の群。

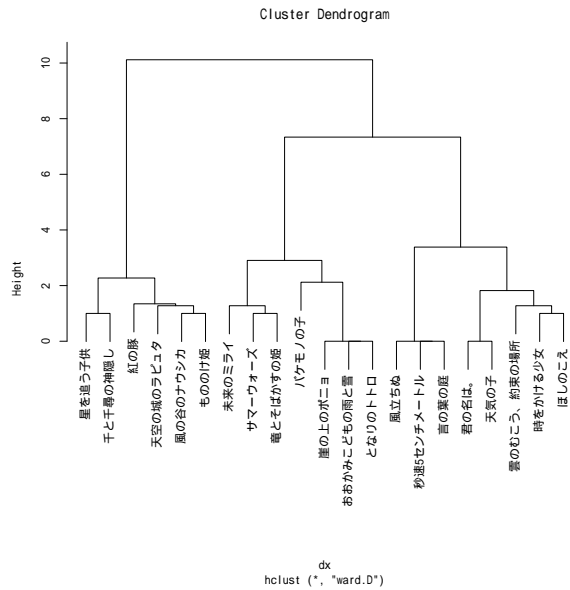


図 1 内容クラスター分析

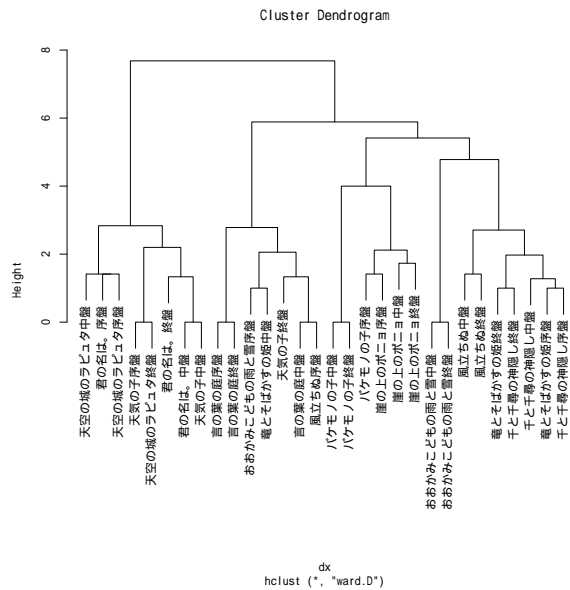


図 2 描写クラスター分析

5 数量化二類分析結果

主人公の年齢およびカット数やシーン数を 3 つのカテゴリーに分けて数量化二類で分析した。その結果を表 1,2 で示す。外的基準から 1 軸からは細田守監督、宮崎駿監督の二名と新海誠監督の違い、2 軸からは細田守監督、新海誠の二名と宮崎駿監督の違いが表れていると分かる。

表1 数量化二類結果表

項目		スコア		偏相関係数	
		1 軸	2 軸	1 軸	2 軸
性別	1	-0.080	-0.098	0.083	0.096
	2	0.120	0.147		
恋愛	1	-0.702	-0.413	0.533	0.301
	2	0.468	0.276		
友情	1	0.251	0.434	0.263	0.375
	2	-0.251	-0.434		
家族	1	0.271	-0.586	0.182	0.295
	2	-0.135	0.293		
年齢	1	0.167	1.189	0.235	0.413
	2	0.084	-0.296		
	3	-0.631	0.442		
カット	1	0.413	-0.160	0.393	0.168
	2	-0.547	0.328		
	3	-0.836	-0.026		
シーン	1	-0.096	0.787	0.453	0.444
	2	-0.350	0.006		
	3	1.060	-1.065		

表2 外的基準

外的基準		1 軸	2 軸
	細田守	0.649	-0.924
	新海誠	-1.186	-0.144
	宮崎駿	0.402	0.801

5.1 恋愛要素

1 軸から新海誠監督は恋愛要素を多く含んだ作品を制作していることが分かる。

5.2 友情要素

2 軸の数値より友情要素に関しては宮崎駿監督作品から多く見られる要素であり、それと対照的に新海誠監督は友情を題材にした作品が非常に少ないことが分かる。

5.3 主人公年齢

2 軸の数値から子供を主人公にした作品を多数制作しているのは宮崎駿監督であることが分かるが、20 歳以上の主人公も描くことがあり作品によって別れていることが分かる。細田守監督、新海誠監督は十代の学生を主人公にした作品が多いと分かる。

5.4 シーン数とカット数

1 軸と 2 軸を比較すると、細田守監督はカット数は少ないがシーン数が多くなっていることが分かる。これは細田守監督の作品である「おおかみこどもの雨と雪」「バケモノの子」のように一作品内で時系列が年単位で進行する作品に見られるものである。また 2 軸から新海誠監督は細田守

監督とは逆のカット数が多く、シーン数が少ないということが作品によく見られ、一つのシーンを細かく割り多数の視点から場面を映すという新海誠監督の特徴がはっきりと出ている。

6 まとめ

6.1 新海誠

新海誠監督は内容に沿った分析と描写に沿った分析の両方の点から他の二人の監督とは違う特徴が存在することが分かった。そして数量化二類からその特徴とは内容においては十代の男女の恋愛を描くことが多いことが分かり、描写においては小さなシーンで非常に多くのカットを使用するスピード感のある作画で、序盤から終盤まで自分の描きたい恋愛というテーマだけを中心に映画を作っていることが分かった。

6.2 細田守

細田守監督は内容に沿ったクラスター分析では作品が集合しているが、描写の沿ったものでは他の二人の監督と同じ群になる場面が存在することが分かった。これは細田守監督がほぼ全ての作品で描く「家族愛」というテーマが恋愛と友情という要素と非常に強く関わっているからだと考えられる。また細田守監督はアニメーターになるきっかけが宮崎駿監督の作品であることや、スタジオジブリに志望していたこともありカット数やシーン数といった作画的な描写で強い影響を受けている点からも二つの要素を含めたときに群が混在することが分かる。

6.3 宮崎駿

宮崎駿監督は内容に沿った分析と描写に沿った分析から作品や場面が新海誠、細田守の両監督と類似するものが存在することが分かった。「天空の城ラピュタ」のような戦闘描写が多い作品ではカット数が多く、「風立ちぬ」のように時間の経過を感じさせる作品ではカット数が少なく、シーン数が多いなど作品によって描写の変化が大きく、他の二名と比較して監督としての経験などが感じられる。

7 おわりに

今回分析を行った監督と作品の関係性はさらに細かい要素で分析をすることで映像作品配信サイトなどで活かすことができると考える。

参考文献

- [1] Amazon Prime Video : <https://www.amazon.co.jp/gp/video/getstarted> (作品参照, 2022/10 閲覧)
- [2] 長畑秀和:『R で学ぶ多変量解析』。朝倉書店, 2017.
- [3] 中村永友:『多次元データ解析法』。共立出版社, 2009.
- [4] Netflix : <https://www.netflix.com/jp/> (作品参照, 2022/10 閲覧)